

教科センター方式ネットワーク研究会 2017



第7回研究会 岐阜聖徳学園大学附属中学校 10月21日(土) 22日(日)

第7回教科センター方式ネットワーク研究会は、岐阜聖徳学園大学附属中学校を会場として、日本個性化教育学会第10回全国大会と合同で開催します。教科センター方式の実践校関係者、教職員、学校設置者、設計者、教育研究者等の皆様には、奮ってご参加ください。

学校プロフィール

岐阜聖徳学園大学附属中学校

平成24(2012)年に岐阜県内初の教科センター方式の中学校として改築されました。9学級、生徒数241人。岐阜聖徳学園大学は平成30年度より福井大学教職大学院との連合教職大学院となります。附属中学校は福井大学教職大学院の拠点校となる予定です。

全体プログラムおよび会場の案内・参加申込

下記の日本個性化教育学会全国大会案内ホームページよりお申込ください。

<https://mooc.ha.shotoku.ac.jp/zenkoren/>

参加費

授業公開など他のプログラムを含む大会参加費として、大会事務局まで2,000円お支払い頂きます。

2017年10月21日（土） 13：00～15：00
岐阜聖徳学園大学 9号館3階教室

I 開会挨拶

長澤 悟(東洋大学名誉教授・教育環境研究所所長
・教科センター方式ネットワーク研究会会長)

II 挨拶

加藤 幸次(上智大学名誉教授・日本個性化教育学会会長)

III 岐阜聖徳学園大学附属中学校の実践から

1)「附属中学校のいま」 青木 廣志(附属中学校長)

2)岐阜聖徳大学附属中学校の実践報告

「肯定的に異文化と出会う英語科のパッケージ学習と環境構成」(仮)

英語科 河田 康皓

……河田先生はJICAと連携してガーナで活動し、取材されています。その経験を生かし国際理解に絡む英語の「一人学び」の実践を通して、教科センターの生かし方を報告して頂きます。

「多様性に対応した学びと、興味・関心を引き出す教科ゾーンづくり」(仮)

理科 伊藤 和幸

……伊藤先生は附属中研究主任を務められています。過去2回にわたり環境構成のワークショップを開いて教師の学習指導観を揺さぶっており、今回は理科ゾーンの具体例を見ながら、教育環境が生徒に与える強いインパクトを紹介して頂きます。

3)生徒とのダイアログ

教科センター方式の学校で学ぶ附属中学校生徒の声

コーディネーター 成田 幸夫(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

休憩

IV 講演「これからの中学校教育と教科センター方式の可能性」

～新学習指導要領と小・中学校における個別化・個性化教育の経験から～

成田 幸夫(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

……生徒とのダイアログや実践報告をまとめつつ、新指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」を構想するうえで何が鍵なのかを、永年にわたる小・中学校での経験を通して語って頂きます。

V 意見交換「実践を受けて」

松木 健一(福井大学大学院教育学研究科 福井大学教育学部附属学園長)
長澤 悟